

# ユウタとコハル

画：ゴハチ



## 暮らしの中の千夜一話

後輩の三島と給湯室に行くと佐伯さんが麦茶を飲んでいました。定年まであと半年足らずだと聞いている。普段は冗談ばかり言う人なのに、その日は珍しく静かだった。「佐伯さん、寂しいんですか?」。空気を読まないことで有名な三島がいきなり変なことを聞くから俺は焦った。けれど佐伯さんはのんきに笑って「寂しいというより不思議だね。長い間うんざりするほど来ていた場所なのに、終わりが見えた途端、惜しむような気になってな」。俺は佐伯さんが少し苦手だった。細かいし、すぐ昔話をするし、会議では一言多いし。でも一番腹が立ったのは別のことだ。同期が次々と昇格した頃、佐伯さんは同期たちに「お前ならできる」と声をかけていたのに、俺には一度もそれがなかった。確かに俺は要領が悪くて、何でも人一倍時間がかかった。だから俺なんか眼中にないのか……。そう思うと悔しくて佐伯さんを恨んだこともあったが、困っているとき最初に気づいてくれるのも佐伯さんだったから余計に気持ちのやり場がなかった。「俺、佐伯さんにムカついたことありました」。三島につられて俺も思わず本音が出てしまった。佐伯さんは麦茶を嘔き出しそうになって「そ、それは悪かったな」と苦笑いで返してきた。「でも、助けられたことも、けっこうありました」「けっこう、か」「いや。かなり、に訂正します」。最初に三島が笑い、つられて佐伯さんと俺も笑った。その日の帰り、俺の机の上に付箋が貼ってあった。「急がなくていい。でも、止まるな」。佐伯さんの字だった。あの頃、佐伯さんから聞いたかった言葉とは違うけれど、今の俺にはよく染みた。ずっと見ていてくれたのか。俺は手帳を開いて付箋を貼り直した。



### 今月のトピック：【純喫茶】

赤いベルベットのソファに、磨き込まれた飴色の木製家具、アンティークの照明。昭和レトロの喫茶店やスナックに若者が足を運んでいます。中でも純喫茶は、重厚な雰囲気クリームソーダやナポリタンなどの定番メニューが「映える」と人気です。長く愛されてきた時の流れが、コスタイパで効率に追われるデジタル世代に響くようです。



### — 弊社のモットー —

私共はあなた様の想いに誠心誠意、奉仕致します。つまり、愚直に、真面目に、地道に、誠実に、謙虚に、スピード感を持ってことにあたります。

### 株式会社 エルフォルク

〒733-0002  
 広島市西区楠木町3丁目10-22  
 TEL : 082-230-8870 FAX : 082-230-8871  
<https://www.tent-erfolg.co.jp>